

過酷なレースも 犬と一緒に走ることに喜び

6月11日、日高文化体育館で、第20回となる2015「植村直己冒険賞」授賞式・記念講演会を開催しました。受賞者の本多有香さん（カナダ・ホワイトホース在住）は約850人の市民らの前で、犬との生活や犬グリレースに挑戦し続ける人生について話しました。

△問合せ 植村直己冒険館 44-11515



▲賞贈呈後の記念撮影（左から椎名さん、本多さん、中貝市長）

「大自然の中で犬と暮らし、自分が育てた犬たちと走りたい！」と強く願っていた本多さん。25歳の時、犬グリレースのマッシャー（犬グリ使い）になるため、日本からカナダへ渡り、17年間修業を重ねました。2012年にはカナダ・ホワイトホースの森を切り開き、自身の住む小屋と26頭の犬たちの小屋を作りました。雪の季節になると、原野を犬と共に思い切り走り、2012年2月には日本人女性としては初となる犬グリレース「ユーコンクエスト」1600kmを完走しました。

選考委員の椎名誠さんからは「結果よりも冒険のプロセスを評価した」と選考評があり、中貝市長は「育てた犬とどこまでも走るために、自身で挑戦している人生そのものが冒険だ」と称賛しました。本多さんは「この賞がもらえ

て良かったです。本当にありがとうございました」と喜びました。

また、記念講演会「犬と走るよろこび」は、冒険家らでつくる「地平線会議」代表世話を江本嘉伸さんとの対談形式で実施。スライド写真を映しながら、普段の犬たちとの暮らしや、過酷なレースでの苦労などを語りました。

過酷なレースでも「犬と一体となり走る感覚がたまらない」と喜びを感じているそうです。授賞式終了後には、植村直己さんの出身地区である国府地区公民館に会場を移動し、第9回となる「植村直己冒険



▲府中小学校によるオープニング



▲カナダの体験談を紹介した記念講演会



▲江本さんの質問に笑顔で答える本多さん

賞」受賞者を囲む会が開催されました。地元区長会と公民館の皆さんなど約100人が心のこもった手料理で本多さんをもてなし、授賞式では聞くことができなかつた話や植村直己さんの思い出話などで大いに盛り上りました。

チャレンジデー2016

過去最高の参加率も由利本荘市に惜敗!!

5月25日、人口規模がほぼ同じ自治体や地区同士で住民のスポーツ参加率を競う「チャレンジデー2016」が行われました。チャレンジデーは、日常的なスポーツの習慣化に向けたきっかけづくりや住民の健康づくりなどを目的とした住民総参加型イベントです。

本市では、歩キングやロープジャンプX、ごみ拾い、グラウンドゴルフなどのスポーツイベントに、7万8人(82.6%)が参加。過去最高の参加率でしたが、惜しくも、由利本荘市(秋田県)に惜敗し、国内相手で3年連続の勝利とはなりませんでした。初となる海外相手との対戦では、アル・シャルキア(オマーン王国)に圧倒的な差で勝利しました。

《問合せ》スポーツ振興課

21-9023



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

①玄さんとチャレンジデー(ボクササイズ)②ロープジャンプX③スポーツごみ拾い④グラウンド・ゴルフ⑤対戦相手の勝利を称え相手自治体の旗を庁舎のメインポールに1週間掲揚⑥竹野潮風ふれあい歩キング⑦出石鶴見ふれあい歩キング

《チャレンジデー 2016 の結果》

市名	人口	参加者数	参加率
豊岡市	84,761 人	70,008 人	82.6%
由利本荘市	80,667 人	66,810 人	82.8%
アル・シャルキア	60,000 人	—	20.6%

※アル・シャルキアの参加者数は不明

《カテゴリー1の順位》

順位	校区	参加者数
1	新田	319 人
2	日高・静修	306 人
3	三江	206 人
4	国府	95 人

《カテゴリー2の順位》

順位	校区	参加者数
1	中筋	139 人
2	奈佐	81 人
3	高橋	30 人

校区対抗チャレンジデー

7 校区のスポーツクラブ

21

が参加しました。カテゴリーを二つに分け、校区ごとの参加者数を競いました。

3人以上の大縄跳び。「人数×跳んだ回数」をポイントとして競います。

《順位》①中学ガールズ②グラウンド・ゴウノトリ

③コウノトリ
POLICE N※68チーム参加

ロープジャンプX

組②みち草2③豊岡地区ス
マイル※25チーム参加

とよおか歩キングピック

1日に歩いた歩数を競います。団体は1チーム5人です。

《順位》①中尾法男②伊地智京子③浜崎早苗※61人参加

△順位・団体

①みち草A②みち草B③みち草C※15チ
ーム参加